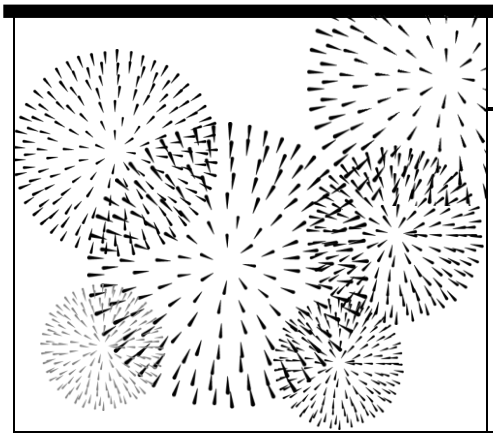
フリースクール全国ネットワークニュース

FREE SCHOOL NETWORK NEWS LETTER　　2016.8.10　No.55



今号の目次

Ｐ１　夏休み明けの子どもの命を守るキャンペーン
Ｐ２　2016 年度通常総会、第 9 回 JDEC ご報告
Ｐ３　フリースクールスタッフ養成連続講座
Ｐ４　熊本・大分地震への対応について
Ｐ５　全国子ども交流合宿 2016 in 宮城
Ｐ６　APDEC（アジア・太平洋フリースクール大会）
Ｐ７　教育機会の確保に関する法律
Ｐ８　事務局より（実践事例報告集 頒布開始!!）

夏休み明けの子どもの命を守る「フリースクールがあるよ」キャンペーン

近年の日本は長期休暇明け、特に夏休み明けに子どもの自殺が突出して多い状況です。子どもたちが自ら死を選択するまで追い詰められたり苦しんでいる背景には、「休んでもいい」という、子どもの権利条約にも明記されている「休む権利」が日本の子どもたちや大人たちにも十分に理解されていないこととともに、「安心して休める場」の存在が知られていないことがあると思われます。翻って考えますと、「休む権利」や「休める場」が広く日本の子どもたち、大人たちに知られることにより、子どもの自殺は少なくなっていくと考えられます。

「死を選択するくらい追い詰められている子どもたちに、私たちが何かできることはないか？」、このことについて今年度の総会で議論されました。（第４号議案「その他の議案」で提案され議決）総会に引き続き開催した第９回ＪＤＥＣでも、ＪＤＥＣミーティングにて参加された方々から様々な取り組みについての意見がだされました。

そこで、フリースクール全国ネットワークでは、今年度は次の３つの活動に取組むこととなりました。

（１）　過去に自殺を考えた人や著名人からのメッセージを発信

（２）　長期休暇明け（始業式の日の前後も含む）の駆け込み居場所の紹介

（３）　フリネット加盟団体における子どもの自殺予防の取り組み紹介

各加盟団体から寄せられたメッセージの配信や駆け込み居場所、各団体独自の取り組みの紹介は、8 月 10 日からフリースクール全国ネットワークのホームページにて順次行っていく予定です。

多くの子どもたちに、メッセージや居場所の情報などが届き、ひとりでも自ら命を絶つことを思いとどまってくれることを願って、この取り組みにご協力や応援のほど、よろしくお願いします。みなさん、一緒に「子どもが自ら命を絶つことがない社会」の実現を目指しましょう！

（中村尊）

【報告】2016 年度通常総会

日　時：2016 年 6 月 25 日（土）　　会　場：東京シューレ葛飾中学校

昨年度はフリネット誕生以来、最も国会や文科省に行った年であり、法案づくりがきっかけでフリースクールや不登校に関心が集まっている、と冒頭挨拶後、出席 10 団体、委任状 25、（これは全 47 団体の三分の一以上に当たる）、定足数を満たしており、議長奥地で始まりました。

第１号議案「2015 年度事業報告及び決算」では、議案の説明を江川が行い、全国キャラバンやたよまなカフェなど立法をめざす活動、他機関との連携のひろがり、JDEC297 名、フリースクールフェスティバル 600 名、研修事業２か所で 109 名の参加で行ったこと、決算報告と監査報告をおこないました。「教育機会確保法」周知のキャラバンのための寄附目標を達成できず収支はマイナスになりましたが、前年度の収益を活動費に充て、会計は問題のない数字にとなっていると報告をしました。以上に対し、質問が活発にあり、特にキャラバンやたよまなカフェの各地の取り組みが報告され、１号議案の採決に入り、保留０、反対０、賛成全員で承認されました。

第２号「2016 年度活動計画と予算」は各担当理事が提案説明、予算案を松島から報告。質疑・意見交換では、「学び」を広いものと確認したい、事務局人件費について、法案についてどうとらえるか、特別支援教育との関係、委託モデル事業など活発な討論があり、採択については、保留１、反対０、賛成多数（委任状含め 35）により承認。３号議案（役員報酬なし）も承認、寄せられていた意見書も検討、事務局から後ほど回答することになりました。　　（奥地圭子）

【開催報告】第９回 JDEC 日本フリースクール大会

日　時：2016 年 6 月 25(土)～26 日（日）　　会　場：東京シューレ葛飾中学校

主　催：NPO 法人フリースクール全国ネットワーク

総会にひき続き、第９回 JDEC（日本フリースクール大会）が参加者 188 人を迎え、開催されました。今回とりあげたかったのは、「教育機会確保法」が成立していればその内容の話でしたが、国会で待機状態になったため、一日目のパネルトークのやり方を工夫、第一部は「フリースクールをとりまく未来」をテーマに、当事者の古豊慶彦、保護者＆サドベリースクール運営者の木村聡、当事者&ネモネットの前北海、フリネット&実現する会の奥地圭子のパネラーで朝倉景樹司会のもと、「確保法こう活かせる」等語り合いました。

目玉としては、第二部パネルトークで、JDEC でも初の、公的機関の方々をお招きして、公民連携がどうできるかを話し合いました。出席パネラーは、亀田徹（文部科学省）、中西正樹（東京都教育庁総務部企画担当課長）、森敬之（全国適応指導教室連絡協議会会長）、川越誠一（葛飾区区議会議員、保護者）、武藤啓司（NPO 法人楠の木学園、神奈川県学校・フリースクール等連絡協議会）の各氏で、連携のイメージや方向性を語ってもらい、参加者から、歴史が変わってきつつあるんだなあと感じたとの声も聞きました。連携の広がりで、子ども支援も、より充実していく可能性を感じました。

２日目の午前は子ども・若者シンポジウムには４人が登場、スタッフ同士の実践交流もおこない、午後は「子ども中心の学び」「ホームエデュケーション」「世界のオルタナティブ教育」「不登校とフリースクール」「不登校支援と教育制度」「もちこみ分科会」の６分科会で深め合いました。最後に JDEC ミーティングで「長期休み明けの自殺防止への取り組み」などいくつかの意見が出され、閉会しました。　　（奥地圭子）

【開催予告】フリースクールスタッフ養成連続講座 2016

日　時：2016 年 9 月 24 日～11 月 6 日（全 8 日間 16 講座）
会　場：北とぴあ（東京都北区）
定　員：40 名
詳　細：http://freeschoolnetwork.jp/training

フリースクール全国ネットワークでは、設立の年以来「フリースクールスタッフ養成・研修講座」を毎年開催してきました。例年、すでにフリースクール等で働いている人のための「経験者編」とこれからフリースクール等に関わりたい、あるいは関わり始めて間もない人のための「入門編」の 2 講座を実施、講座を受講した後にフリースクール等で働き始める人はもちろん、自らの手で場所をつくりだした方も大勢います。

そして、今年は「フリースクールスタッフ養成連続講座」と名前を変え、これからフリースクール等に関わりたい人に向けて特化した内容とし。「教育機会の確保に関する法律」をはじめとする法律、施策によってフリースクール等が増えていく時代を迎えるにあたって、様々な地域で同様の「養成講座」を開催するための基本となるプログラムづくりや、フリースクール等で不登校の子どもと関わるため、どのような事を学んでおくべきかの指針を示すことにもつなげていきたいと考えています。

※これまでの「経験者編」の内容は、今後 JDEC 等の機会を活かして学んでいきたいと思います。

講座の内容は以下の通り、毎回の講座の終了後にもその日のふりかえりとフリーディスカッションの時間も設け、たっぷり学び、語り合える時間にしていきたいと考えています。この機会にフリースクールや不登校についてしっかり学びたい人、ご自身の団体でスタッフ育成をしていくためにも講座の様子を体感したい、あるいは改めて体系的に学び、ご自身の考えを言語化したいというベテラン・中堅スタッフの方のご参加も大歓迎。みなさま、是非ご参加ください。

フリースクールスタッフ養成講座 2016 講座一覧

9/24(土) 基礎講座「フリースクールとは何か」	10/22(土) 「発達障害」と不登校
9/24(土) 不登校とは何か～フリースクールの実践から見えるもの～	10/22(土) これまでに学んだことをふりかえる その 1
9/25(日) 子ども中心の学びをどう創るか	10/23(日) 不登校・フリースクールに関わる法律と制度
9/25(日) フリースクールで育った子どもたち	10/23(日) 行政との連携で子どもを支える
10/9(日) ホームエデュケーション～家庭を中心として育つこと～	11/5(土) フリースクールのつくり方と経営/フリースクールからの進路
10/9(日) 不登校の子どもをもつ保護者のシンポジウム	11/5(土) フリースクールで働くこと～その魅力と実際～
10/10(祝月) 保護者支援のあり方と、その必要性を考える	11/6(日) これまでに学んだことをふりかえる その 2
10/10(祝月) 困難な状況を抱える子どもとの関わり	11/6(日) まとめとふりかえり

（松島裕之）

熊本・大分地震への対応について

2016 年 7 月 4 日～5 日にかけて熊本の益城町と熊本市を訪問してきました。仮設住宅が出来上がったばかりで、入居はまだ済んでいませんでした。私たち寺子屋方丈舎（福島県）は、2011 年の東日本大震災直後から多くの避難者が押し寄せ、約 3 ヶ月は混乱の中におりました。

子どもと遊ぶボランティアの活動を 1 次避難所の公共施設や 2 次避難所で行ったことを昨日のことのように思い出します。今回の熊本地震は、震災から 3 ヶ月を経てもまだ瓦礫（がれき）の撤去が進んでおりません。避難されている方も不安な状況ながら生活を徐々に再開されておりました。

直接、ボランティアに入られた方もいらっしゃるでしょうが、私たちの経験からは、仮設住宅などがある程度整備されてから震災の支援に入ることが大事だと思っています。つまり、長期的な支援が必要とされるので、被災された方の生活が一応の安定をみられるところまで待ったほうが受け入れる側にとっても、無理なく支援を受けることができるということです。

震災直後で、街のあちこちはまだまだ工事車両がゆきかって混乱しておりました。まだ、梅雨の時期でもあったので、河川では水害対策のために土嚢が積み上げられてもいました。そんな中で、田植えが行われていたのは、住民の方の日常が回復されつつある象徴のようにも思えました。

私たちフリースクール全国ネットワークの仲間である「フリースクール地球子屋（てらこや）」さんを訪問しましたが、突然だったので代表の加藤さんには会えませんでした。震災からまだまだ、混乱した状況にあります。これまでも事務局に募金をお寄せいただきましたが、継続的な募金活動は今後とも必要だと思います。また、長期休み等に熊本で支援する活動も今年の冬頃からは可能になって行けるのではないか？と感じました。息の長い取り組みを、みなさんとともに続けたいと考えています。

（江川和弥）

□■

熊本地震へのご寄付をありがとうございました。
総額 98,548 円集まり、フリースクール地球子屋さんにお送りしました。

□■

不登校・登校拒否を考える夏の全国合宿 2016 in 宮城

全国子ども交流合宿 ～皆のもの集合すっぺ！これは伊達じゃない～

日　時：2016 年 8 月 20,21 日（土曜,日曜日）
会　場：東北学院大学、ホテルキャッスルプラザ多賀城
主　催：NPO 法人登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク
　　NPO 法人フリースクール全国ネットワーク
共　催：東北学院大学

「不登校・登校拒否を考える夏の全国合宿」は登校拒否・不登校を考える全国ネットワークが中心となって始まった不登校の親の会や、わが子の不登校のことについて考えたい、学びたいという人のための一泊二日の大会で、1990 年から毎年、各地の持ち回りで開催されてきました。1991 年からスタートした「全国子ども交流合宿」も、最初は現地のフリースクール等やフリネットの設立以後はフリネットも子どもプログラムの企画・運営に加わり、フリースクールに通っている人も、いない人も親子そろって学んで楽しめる合宿です。合宿といっても、日帰りでの参加も大丈夫、宿泊場所も今年は一般のホテルですので、朝、夜は自分のペースで過ごせます。

今年、2016 年は宮城県仙台市で開催、実行委員には、宮城県はもちろん福島や山形の親の会やフリースクール、ホームエデュケーションの家庭も加わり、企画を準備しています。

おとな向けのプログラムは、テレビでおなじみ尾木ママも登場「ありのままに、今を輝く」をテーマに、おとなも子どももホッとできるような内容で講演をしていただきます。また、不登校の子どもやその親のシンポジウム、テーマ別の分科会といったおなじみのプログラムに加え、震災以後、新たに立ちあがったフリースクール等の団体、子ども支援団体の皆様にむけた内容もご用意しています。詳細は［不登校　全国ネット］でもご覧いただけます。参加をお待ちしています。

□■

子ども参加者を無料招待 ＆ 招待費用の寄付を募集しています

□■

子どもプログラムは、牡蠣殻キャンドル作り、折り紙ワークショップ、羊毛フェルト工作、カードゲーム・テレビゲーム大会、卓球大会、フットサル、逃走中、被災地見学、朝釣りなどなど、東北各県のフリースクールや、東京、大阪のメンバーも一緒に楽しいプログラムを考えてくれています。

たくさんのプログラムの中から、自分の参加したいものを選んで参加したり、プログラムには参加せずにフリースペースでまったり過ごすこともできるので、自分のペースに合わせて参加ができます。

さらに、今年は震災の影響から学校に行きづらくなった子どもたち、経済的に苦しい状況にいる子どもたちも大勢いることを踏まえ、子ども(日帰り)の参加費を無料にすることにしました。同時に子どもプログラムの実施に必要な資金の寄付も募集をしています。詳細は別紙または右記の QR コードから。ご協力よろしくお願いいたします。

（松島裕之）

APDEC（Asia-Pacific Democratic Education Conference）

この記事をご覧になっているみなさんは、IDEC（InternationalDemocraticEducationConference）という言葉をご存じでしょうか？ 世界各国のデモクラティック教育（オルタナティブ教育とか、日本ではフリースクールと言われることも）の関係者が集まる年一回の大会で、フリースクール全国ネットワークも 2000 年の IDEC 日本大会をきっかけに誕生しています。

そして、IDEC だけでなく、アジア・太平洋地域の大会もやろう、地域固有の課題を考えたり、(距離の近さなどによって)同じメンバーが継続的に参加しやすい状況をつくることによって、もっと具体的な意見の交換や助け合いの輪をつくっていこうという機運がたかまり、2016 年 7 月 18 日～24 日、第一回目の APDEC が台湾にて開催されました。（「えいぴーでっく」と発音します）

フリースクール全国ネットワークでは APDEC 台湾への参加ツアーを実施、総勢 20 名ほどのメンバーで、朝には基調講演があり、昼間から夕方にかけて参加者が持ち込んだワークショップが同時並行でたくさん行われ（事前に申し込まれたものはもちろん、当日持ち込みでやるものもあります）、夜には自由な交流の時間やステージパフォーマンス、チャリティオークション等も行われる。時にはワークショップの時間にミーティングが開催され、「これからの APDEC」をテーマに討論も交わされる、そんな一週間を過ごしてきました。運営側も参加者も、一緒になってひとつのイベントをつくっていくという空気はフリースクールの日常とも共通していて、基調講演やワークショップでの学びとともに、フリースクールの活動の面白さを再確認させてくれました。

【APDEC2017 日本開催決定!!】

そして、ミーティングでは 2017 年の APDEC を日本で開催することが決まりました。会場は東京・代々木のオリンピックセンター、日程は 2017 年 8 月 1 日から 5 日の 5 日間。まだまだ始まったばかりの大会ですから、各国からの参加者同士はもちろん、日本国内の参加者同士も、まずはお互いが知り合い、今後のつながりをつくっていけるような大会にしたいと考えています。

実行委員会の募集、大会の内容等については、今後ホームページを通じて順次お知らせをしていく予定です。どうぞ、ご注目ください。

APDEC2016 in 台湾 主な講演者

ヤコブ・ヘクト
エデュケーション・シティ代表
（イスラエル）

アムクタ・マハパトラ
スクール・スケープ代表
（インド）

ピーター・グレイ
ボストン大学教授
（アメリカ）

ヘンリー・レッドヘッド
サマーヒルスクールスタッフ
（イギリス）

「教育機会確保法」のいま、これから

「教育機会確保法」は、先の通常国会に自民、公明、民進、大阪維新の４党で上程されました。しかし、審議前日、民進が参院選での野党共闘のため審議入りに反対し、そのまま会期切れ。臨時国会へ持ち越しとなりました。立法過程には、議員も市民も様々な意見があり紆余曲折してきましたが、もともとは市民が持ち込んで形成されてきた法案です。改めて経過と課題を振り返っておきましょう。

2010 年、フリネットを中心に「オルタナティブ教育法」を構想し、2012 年、多様な学びの場の運動と連帯して「多様な学び保障法」として練り上げ、政権交代後、もう一度議員連盟結成を働きかけ、2014 年に超党派フリースクール議連が誕生、夜間中学とともに学校外でやっている不登校の子どもについても「普通教育の機会を確保する」という共通視点で一つの法律になり「多様な教育機会確保法（馳案）」となって、昨夏集中して検討されました。

馳案の肝は「個別学習計画」を親子で選択・作成でき、就学や学習指導要領から外れて家庭でもフリースクールでもやれるというしくみでした。これに対し、自民の中の「不登校を増やすから認めない」「国の決めた学校でやらせるべき」という学校中心・国家統制的な意見、共産を中心に「学校をよくすることが先」「不登校全体を救うものに」「就学を外すのは排除・インクルーシブに反する」といった別の立場からの学校中心の意見に押され、また市民・親の会の中にも「統制や管理強化につながる」「親子を追い詰める」「選択は市場化につながる」などの反対意見も出て昨年はまとまりませんでした。一条校学校以外の多様な学びの場を担保し、国家統制教育から子ども（学習者）による学びへの転換の契機となる可能性を含んだ「個別学習計画」の評価については、いずれしっかりと振り返るべきでしょう。

馳座長の文科大臣就任以後は、丹羽秀樹新座長のもと、多くの反対意見をほぼ吸収して「全ての子どもが安心できる学校」、これまでどおり就学だが「個々の子どもに応じて学校以外も認めて支援する」といった丹羽案に調整され、４党合同提案となりました。法案は趣旨を変え理念法に変わりましたが、学校外を選ぶことはできないが学校外の学びの重要性は認め支援する、子どもの権利にのっとる、子どもの意思を十分に尊重する、年齢・国籍その他の事情にかかわらず保障する、民間の意見の反映や密接な連携といった点は生かされました。

夏の参院選、内閣改造で、国会状況には再度の変化が出てきます。7 月 17 日の実現する会総会には、馳文科大臣が来場、あいさつをいただきましたが、立法には引き続き力を入れていただきたいと願っています。

（中村国生）

事務局より

フリースクール等における在宅支援を含めた個別支援の実践事例報告集

なんだか堅苦しい名前ですが、「フリースクールって実際のところどんなふうに活動しているの?」という事を知っていただくために作った小冊子です。

「どのような理念で」「どんなルールで」「どんなプログラムで」という紹介はこれまでもいくつかありましたが、この小冊子では「ひとりの人」に焦点を当てて、入会前の見学・面談から退会（卒業）、その後までのストーリーを追いかけ、そこからフリースクールの活動を知ってもらうという新しい試みに挑戦しました。

学校は行きづらくても、フリースクールなら通えるって、一体何が違うんだろうか? 自分も（フリースクールに限らず）不登校の子どもと関わる何かがしたい。 フリースクール全国ネットワークって、どんなことを大切にしている団体なの? そんな事を考えているあなたに、ぜひ手にとっていただきたい冊子です。詳しくは団体HP「書籍紹介コーナー（http://freeschoolnetwork.jp/book）」をご覧いただくか、事務局までお問い合わせください。

フリースクール等における在宅支援を含めた個別支援の実践事例報告集 A5版84ページ 頒布価格1000円
※この冊子は2015年度文部科学省委託事業の一環として製作したものです。

■フリースクール全国ネットワーク　会員募集中■

フリースクール全国ネットワークをともに創り、支援して頂ける会員を募集しています。総会での議決権を持つ正会員は、当法人の目的と活動に賛同し、ともに活動をつくってくださるフリースクール等の団体が対象。支援会員は、当法人の目的と活動に賛同し、参加・ご支援をしてくださる個人や団体が対象です。多くの皆様の力と知恵を集め、フリースクール等の活動や、そこで学び・育つ子どもたちを支えるため、ご入会をお待ちしております。

□正　会　員□

フリースクール全国ネットワークの活動をともに創っていくフリースクール等の団体

入会金2,000円　年会費1口6,000円（2口以上）

□支援会員□

フリースクール全国ネットワークや各地のフリースクールの活動を応援する個人や団体

入会金なし　年会費1口3,000円

□お振込先□

[郵便局から]

普通預金　口座番号　00130 - 5 - 611018
加入者名　特定非営利活動法人
　　フリースクール全国ネットワーク

[銀行から]

ゆうちょ銀行　〇一九支店（ゼロイチキュウ）
金融機関コード：9900　店番：019
預金種別：当座　　口座番号：0611018
口座名　特定非営利活動法人
　　フリースクール全国ネットワーク

■発行・お問い合わせ先■

NPO法人フリースクール全国ネットワーク

〒114-0021 東京都北区岸町1-9-19 コーエイビル
TEL&FAX：03 - 5924 - 0525
（毎週平日 9：30〜18：00）

E-mail：info@freeschoolnetwork.jp
URL：http://freeschoolnetwork.jp/
Twitter：https://twitter.com/#!/freeschoolnet
FB: http://www.facebook.com/freeschoolnetwork